

音楽理論学習指導案

日時 平成23年11月8日
場所 芸術棟2階音楽室2
鹿児島県立松陽高等学校
音楽科 2年7組
(男子7名・女子33名 計40名)
指導者 濱田 淳一

1 題材 「移調，移調楽器について知ろう」～後編：4章 音階と調～

2 指導目標

- (1) 移調・移調楽器について正しく理解させる。
- (2) 既知の曲等を用いて移調・移調楽器に関する実習をさせる。
- (3) 演習を通して移調・移調楽器の知識を定着させる。

3 評価の基準

- (1) 移調・移調楽器の仕組みについて理解しているか。
- (2) 移調・移調楽器の知識を正しく理解し，スコアリーディングや楽曲分析に活かすことが出来ているか。
- (3) 主体的に演習に取り組んでいるか。

4 研究テーマとの関連

移調・移調楽器の理解に必要な基礎知識を身につけることで，アンサンブルや吹奏楽曲・管弦楽曲等の演奏や鑑賞を通して音楽の理解を深める契機とする。

5 題材について

(1) 題材設定の理由

移調・移調楽器の理論を学習することが，アンサンブルや管弦楽・吹奏楽といった規模大きな演奏形態の楽曲の演奏や鑑賞の際に，不可欠な知識であることを理解させることを目的として，本題材を設定した。

(2) 教材について

ア 教材名

「明解 新楽典 ～音楽を志す人々のために」(音楽の友社)より
後編：4章 音階と調

イ 指導観

楽曲の中で，アンサンブルや管弦楽・吹奏楽などの大規模な演奏形態が占める割合は非常に大きい。それらの中では様々な移調楽器が用いられているが，音楽理論の分野の中でも最も理解しづらい分野の一つが，この移調・移調楽器についてである。本題材の学習を通して移調・移調楽器の理論を学ぶことで，スコアリーディングや楽曲分析の基礎を理解できるよう指導する。

6 生徒の実態

明るく活発な生徒が多いが、授業中は比較的小となしいクラスである。専攻の内訳はピアノ 10 人、管打楽器 24 人、声楽 6 人で管楽器の専攻の生徒が多いが、自らが専攻している楽器が移調や移調楽器についての理解が十分とは言えない。また、ピアノや声楽専攻の生徒にとっては、これまでの演奏活動で体験する機会が少ない理論でもあるため、概念自体が理解できていない生徒もみられる。

7 本時

(1) 目標

- ア 移調と移調楽器について理解する。
- イ 楽曲の旋律を用いて移調の実習を行う。
- ウ スコアを通して実例を学ぶ。

(2) 展開

過程	学習内容	時間	指導上の留意点（・は評価の観点）	備考
導入	1 本時の学習の目的を知る。	3	音楽における移調・移調楽器の理解の重要性を伝える。	
展開	2 移調について知る。 3 移調楽器について知る。 4 問題演習を解答する。 5 移調及び移調楽器が楽曲の中で、どの様に用いられているかを知る。	40	譜例を示し、ピアノ、トランペット、ホルン、アルトサクソフォン、トロンボーンで演奏させ、実音との違いを聴きとらせる。 スコアを用いて記譜と実音の違いを知る。	ホワイトボード 楽譜の準備
終末	6 本時のまとめを行い、次時の予告を聞く。	2	本時の学習内容のまとめと、次時に向けての課題を確認させる。	

(3) 本時の評価規準

- ア 移調と移調楽器について理解できたか。
- イ 楽曲の旋律を用いて移調の実習ができたか。
- ウ スコアを通して実例を学ぶことができたか。